

## 信楽窯業技術試験場のあり方（施設更新）検討について

### 1 信楽窯業技術試験場の概要

公設の試験研究機関として、主に窯業およびセラミック関連の技術支援（研究開発、技術相談、依頼試験分析、試験分析機器の開放、技術研修（人材育成）等）を行うことにより、県内窯業・セラミック関連企業および信楽焼産地への技術移転、新素材・新商品の開発、窯業技術者の養成等に取り組んでいる。

所在地	分野	職員数	土地	建物(本館竣工年度)
甲賀市信楽町長野 498	陶磁器デザイン セラミック材料	9人	7,561 m <sup>2</sup>	3,296 m <sup>2</sup> (昭和41年度)

### 2 あり方（施設更新）検討にあたって考慮すべき事項

#### (1) 滋賀県県有施設更新・改修方針(H28.3)における位置づけ

更新（建替）について「早期（平成28～32年度）の事業着手に向けて、具体的な事業内容等の精査・検討を行うもの」と整理。また、更新に係る基本的な考え方として「窯業分野の更なる産業発展に寄与できる施設となるよう、更新に向け事業内容の精査を行う」ことが示されている。

#### (2) 平成28年度包括外部監査(H29.3)における意見

「試験場は建物建築後、相当年数が経過しており老朽化が進んでいる。このままでは試験場の運営に行き詰まることとなり、移転・建て替え等も含めた検討が必要である。早急に何らかの結論を出すよう検討を急がりたい。」

#### (3) 地元経済関係6団体\*から知事・甲賀市長あて要望書の提出(H30.5)

「信楽窯業技術試験場は、信楽焼産地の将来にとって不可欠な、重要な施設であります。この地域の中核的産業の礎を担う当該施設を、早期に更新し、なおかつ現在未利用となっております滋賀県立陶芸の森前の私有地に移転いただきたく、要望申し上げます。」

※地元経済関係6団体：甲賀市商工会、信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合、信楽焼振興協議会、信楽商店協同組合、信楽町観光協会

### 3 これまでの検討経過

#### (1) 滋賀県県有施設更新・改修方針策定後の庁内検討

当初は、陶芸の森との連携による海外販路開拓やグローバルな視野を持つ後継者育成を目指し、陶芸の森敷地内への移転を計画していたが、造成、道路取付、電気・給排水工事等、インフラ整備に多額の経費が必要となることが明らかとなり、現地建替を第一候補に検討を進めてきた。

## (2) 「信楽窯業技術試験場あり方懇話会」による検討

- ・委員構成 窯業関連企業・団体（地元陶製品製造企業、信楽陶器工業協同組合、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県陶芸の森）、地元高等学校（信楽高等学校）、地元観光団体、学識経験者、関係自治体（甲賀市） 9名
- ・開催状況 第1回 H29/6/21 第2回 H30/6/20 第3回 H30/7/11
- ・検討内容 更新（建替）後の試験場が備えるべき機能とともに、地元経済関係6団体の要望書の提出を踏まえ、現地建替に陶芸の森前の私有地も候補地として加え、機能発揮のための立地環境について意見交換。

### 主な意見

#### <試験場が備えるべき機能について>

##### ■窯業基盤技術を活かしたモノづくり支援機能

- ・素材から製品までの一貫した研究開発
- ・評価から製造まで対応した技術支援と機器開放

##### ■産地の維持発展のためのヒトづくり支援機能

- ・専門知識や技能を持つ後継者の養成
- ・修了者等への起業に向けた技術支援と施設開放
- ・将来を担う若者や子どもたちへの魅力発信

##### ■情報発信や地域連携のためのコトづくり支援機能

- ・連携交流による商品開発と国内外への販路拡大
- ・参考資料や試作品の閲覧機能を備えた屋内外展示
- ・観光に繋がる開発製品の展示や窯業技術研修の公開

#### <機能発揮のための立地環境について>

- ・自動車での移動が日常的信楽では、産地内に試験場があれば何れも問題ない

- ・陶芸の森前は、陶芸の森との連携により、新たな研修への取組や、若者の窯業への関心を高める取組が期待できる

- ・陶芸の森前は、集客性の良さを活かし、多様な関係者の連携交流による活動、試験場や産地の魅力発信が期待できる

○信楽焼産地にとって信楽窯業技術試験場は今後ますます重要な存在であり、産地活性化のコアとなる「モノづくり支援」、後継者を育てる「ヒトづくり支援」に加え、多くの関係者の連携・交流による商品開発や販路開拓、産地の魅力発信などを行う「コトづくり支援」の3つの機能を備えることが望ましい

○これらの機能を発揮する立地環境としては、信楽の玄関口として多くの観光客や市民が訪れる地理的優位性を活かし、陶芸の森や甲賀市との連携により新たな取組が期待できる、陶芸の森前への移転が望ましい

## 4 今後の検討方向

- ・試験場が備えるべき機能については、懇話会の意見を踏まえ、「モノづくり支援」「ヒトづくり支援」「コトづくり支援」の3つの機能を軸に、さらに具体的な検討・計画を進めていく。
- ・機能発揮のための立地環境については、懇話会の意見を踏まえ、候補地として「現地建替」に「陶芸の森前」を加え、甲賀市と検討・調整を進めていく。